

第 8 号
昭和51年 3月 1日発行
豊中・サンマテオ
姉妹都市協会
事務局 豊中市企画部
企画課(54)1121



閲覧用

豊中ナイト開かる！

昨年の5月16日、サンマテオ市のセントラルパーク・レクリエーションセンターで豊中ナイトが行われた。

写真は、列席したサ市の女性市長ジェイン・ベーカー女史及び来賓の日本のサンフランシスコ総領事館員達。

成功裡に第4回高校英語弁論大会終わる

例年、11月に大会を開催しているが、今年度は諸般の事情により、時期をずらし新春早々の昭和51年1月17日(土)に、第4回大会を開催した。一部に「英語弁論大会は、もう時代遅れだ」という声もあるようだが、生徒の英語力を公衆の前で発表し、実力を競うということは、英語教育の向上に役立つと考える。幸にしてこの大会は、回を重ねるごとに、北摂地区における唯一の権威ある公的弁論大会として評価を高めつつある。

応募者も年々増え、本年度は定員(15名)をはるかに越える盛況であったため、定員を20名に増やしたが、それでも、止むなく受付を断わらざるをえなかった生徒さんもあり、まことに申しわけなく思っている。

PRも大切であると考え、従来と同様に各高校の先生に依頼したり、市の広報紙に掲載する一方、商業紙にも2回にわたり募集広告を行った。

最終出場者20名の出身校は次のとおりであった。

梅花学園高校	12名
小林聖心女子高校	3名
被昇天学園高校	2名
池田高校	1名
大阪成蹊女子高校	1名
箕面高校	1名

第1回大会以来、男子生徒の出場が少ないが、今回も箕面高校の福島君一人であった。

次回よりできるだけ多数の男子生徒の出場を望むものである。

審査員には、チーフジャッジとして、ナンシー坂本女史が大阪アメリカンセンターから派遣されたが、女史には第2回大会からずっとチーフジャッジをお願いしている。この他、宮城弘善府立豊中高校教諭(第1回から)、大阪北Y M C A講師川合隆子氏(第1回から)、豊中市立教育研究所指導主事池上武氏(第3回から)の各氏に引きついでお願いし、新たに、大阪北Y M C Aからキース田村氏を派遣してもらい、計5名の審査員で審査を行った。



審査員席の先生方

出場者はあらかじめ、協会から提示してある3つのテーマ「私の信条」、「私の休日」、「友情」の中より一題を選んで、5分以内で弁論を行うわけであるが、身近なテーマのためか、「友情」を選んだ出場者が一番多かった。又、出場者の中には、昨年の第3回大会の出場者が4名含まれており、協会としても、このように何回も出場されることは、大歓迎である。

大会は午後2時から始したが、出場者多数のため途中で休憩をとり、全員の弁論が終了したのは、午後4時であった。ただちに別室で、5名の審査員が公正、厳正に審査した結果、次のように入賞者が決定した。

優勝	吉村晶一子
	小林聖心女子高1年
2位	岸亜暉子
	小林聖心女子高1年
3位	勇伊美千子
	梅花学園高3年
4位	中山真理子
	梅花学園高3年
5位	梶佐与子
	梅花学園高3年



熱心に聴き入る聴衆席



弁論風景

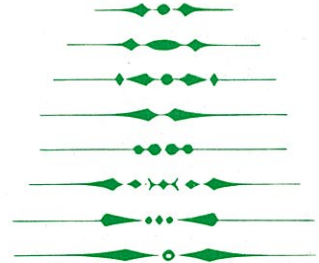
優勝の吉村さんには、市村会長から賞状及び会長賞のトロフィー、公務のため出席できなかった下村市長にかわって島岡助役から賞状及び市長賞の楯が(ok)られた。なお、サンマテオ市長賞として同市長から送られてきたエルカミノベルが、市村会長から(ok)られた。

この他の入賞者にも、それぞれ、会長賞のトロフィー、賞状が(ok)られた。

事務局としては、来年度も是非開催したいと考えております。今回入賞された方は来年も、惜くも入賞を逸された方は来年こそ、それぞれ優勝を目標としてのご奮闘を期待しております。

最後になりましたが、大会の成功にご協力下さいました各高校の先生方、民間英語教育機関の方々、報道関係者並びにご父兄の方々に対し厚くお礼申し上げます。

(姉妹都市協会事務局記)



入賞者前列左より、4位中山真理子(梅花)、2位岸亜暉子(小林聖心)、優勝吉村晶子(小林聖心)、3位勇伊美千子(梅花)、5位榊佐与子(梅花)、後列左より、永見企画部長、島岡助役、宮城、ミセス坂本、〔市村会長〕、キース田村、川合、池上各審査員(敬称略)

「審査員のひとりとして」

豊中市立教育研究所

指導主事 池上 武

交通通信技術に長足の進歩を遂げた20世紀も4分の3が経過した現在、国際交流は益々盛んとなり、地球は運命共同体としての道をはっきりと歩みはじめています。世界はひとつ、人間皆兄弟です。特に人口と資源のアンバランスが著しい我が国は、国際社会に依存する度合が極めて高く、世界に命を託しているといっても過言ではないでしょう。この厳しい大海原を乗り切る地球丸の一乗務員は、他に依存するのみでは、その存在価値がありません。

“Give and Take”の精神を発揮して、自己が生きると共に、他も生きかさねばなりません。日本は、長い歴史の中で培われた勝れた文化を持った国です。

地球人が生きぬいていくために、その英知を自らのサービスとして、世界に提供しなければなりません。共存のための相互理解は、主として言葉をその媒体としてなされるものです。彼我のコミュニケーションにギャップがあっては協力も協調もありません。ここに私達が、国際語としての英語を学ぶ意義があります。特に、文字を通して相手を間接的に理解するだけではなく、自己を、誤解されることなく明確に表現し、識見をもって、懸命に理を説き、説得に心を砕く、積極的な世界への働きかけが、これからはどうしても必要です。

この意味において、4回目をかぞえる今大会に、はじめて20名を越える若人達が、英語で自己表現をする機会をつかまれたことは、誠にうれしいことでした。それだけに、実力伯仲の出場者の中から、ベストファイブを選びだすことには、審査員一同悩まされました。「心余って言葉足らず」であったり、比較的訓練された英語であっても、内容が浅かったり、甲乙つけ難いものでしたが、発音・抑揚・内容・語法・話し方の態度等を採点の観点として、慎重審議の上、ベターな5名を決定しました。

優勝した吉村さんは、「隣人愛と親切心」を信条とするに至る過程を、TV番組を切っ掛けとして、それまで尊敬していた強い意志と勇気で、自己の目的をつらぬき、歴史を築いた偉人達よりも、ごくりふれた人々の、ごくりふれた日常生活での暖かい人間愛に、より共感するようになったこと。そして、そのことを身をもって実践した祖母を偲び、クリスマス・キャロルのコーラス練習という自らの行動を通じて、集団の中で「自分ひとりぐらいいは」という安易な気持ちを戒め、それを乗り越えて他人と喜びを別ち合うことの満足感を学んだという経験を、堂々と発表されました。練習も充分積まれており、ステージマナーも自然で落ち着きがあり、聞き取り易い立派なスピーチでした。

第二位の岸さんの弁論は、週末を明るく楽しい家族団らんの中で、無邪気に過ごし、清新の気を漲らせて、学園生活に戻っていく寄宿生の姿を、彷彿させるものでした。日米人の休日の過ごし方の相異から教訓を学び、私達の生活にとって、休日というもの如何に大切なものであるのか、又その価値を生かすも殺すも、私達自身にあるということ、を、明快な論旨で、次々に語りかける説得力のあるすばらしいものでした。

クリスチャンとして洗礼をうけ、博愛に生きる自分の体験を、静かに語って下さった第三位の勇伊さん、友情の大切さを、ヘレン・ケラーを範として仰ぎながら訴えて、四位になった中山さん等々、他に惜しくも入賞を逸した方々のいづれもが、高校生らしい、積極的な姿勢で、好感を抱くことができました。

要するに、内容に関しては、個性豊かな自己に忠実なもの、身近な事柄を、素直に感情をこめてとりあげ、具体的にのべることです。

何がいいのかわか、はっきりと首尾一貫して、一つ一つ聴衆と共に考えていく心掛けが共感をよび、個人特有の興味・体験を一般化し、弁士と聴衆とを一体化させていく道です。昔から「文は人なり」といわれています。言葉とは、自己が外界の事実をどう認識しているのか、ということに関わっているものです。スピーチには、スピーカーの全人格が、ひとりで、にじみ出てくるものです。自分のものを、自然に、ゆとりをもって語り、共に同じ考え、同じ感情をもってもらいたいと、働きかけるのが演説なのです。

次に、皆さんが、英語学習途上の高校生ということから、英語そのものの話し方といったことで、全審査員が気付きましたことを、ご注意申し上げます。

いくらすばらしい内容を述べようとしても、英語そのものの力、特に音声面に欠陥があっては、せっかくの英語が死んでしまいます。

発音がまずいと、何をしゃべっているのか、非常に聞き取りにくいときがあります。

{l}と{r}、{s}と{θ}、{b}と{v}などの対比における日本語にない音だとか、アクセントとかいう個々の発音もさることながら、文や句全体としての英語独特のリズムやイントネーションの習得につとめることが、極めて大切なことになります。日本語の場合でも、私達は、一つ一つの音よりも、文全体の調子で聞きとっています。それから、日本語をしゃべるときと同じ呼吸で、まるで息のみ込んでしまっているかのように、口先だけでペラペラとスピード・アップされては、文中の音と音との連結が軽く不鮮明で、特におわりの音がよく聞きとれず、わかりにくいものです。音の重要なところが、モヤモヤと口の中で消えていくような感じなのです。審査委員長のナンシー・サカモト女史は、ここのところを次のように講評なさいました。

Don't swallow your tongue.
Get your tongue and lips forward.
Between your pauses, speak slowly.
Hold your voice longer.

要するに、しかるべき意味のかたまりで、息継ぎをすること、そのフレーズ内で、一つ一つの音とその連結を、正確に発音し、音を唇の外に出すことです。英米人の声は、Low pitch で Stress のある Chest Voice という、低いけれども強く遠くまで響くものです。呼吸や発声を練習して、わかる英語を使用できるよう、努力を継続して下さい。Practice makes perfect です。日頃から、教科書等の文章を、注意深く音読したり、テレビ・ラジオ・テープ等の立派なモデルを聴いていると、自分の気づかぬうちに上達しているものです。

最後に、各学校等でご協力ご指導を賜りました諸先生方と、熱心な聴衆の皆様と、心よりお礼申し上げますと共に、次回には、更に多数の男女高校生が、出場なさることを、楽しみに待っております。

「英語弁論大会に出場して」

小林聖心女子学院

高一年 吉村 晶子

このたび思いがけなく、受賞の光栄に恵まれ、なによりも先ず、私は御熱心な御指導とお励ましをいただいた諸先生に心からの感謝を表したいと思います。

私がそうであったように、こういう機会を与えられなかったら、おおかたの高校生が教科としての英語学習、又は受験のためだけの英語として素通りしてしまうところを、この大会のおかげで本当に有意義に勉強させて頂けたと思います。テーマを決め、文章を書き起こすことからはじまり、力の足りなさをいやという程痛感しながら何度原稿用紙の上を行きつ戻りつしたことでしょう。文字通り英語と格闘の数日が続いたのです。

英語は日本語と同じく言葉である。それは一人の人間が他の人間と意志を疎通する手段です。私がこの大会のための準備段階で強く感じたことは、日本式英語の域を中々出られないことです。日本語を英語に訳そうとするし、英語をすぐ日本語に直そうとするのです。

こんな作業をしているかぎり、日本式英語になるのも当然ではないでしょうか。これでは世界の人々との意志の疎

通などできるはずはありません。もっと英語というものを、教室から出て生活の場に密着させ、生きた英語を使えるようになりたいものです。世界に百数十ヶ国語があっても、主役は何ととっても英語であり公用語です。日本は貿易立国の宿命を負っているし、文化的にも国際交流なしでは生きてゆけません。欧米青年子女と相互理解と親睦を深めるためにも、もっともっと語学力の向上に努力せねばならないと思います。

この大会への参加を機会に、私の心の中に、国際人へのスタートを目覚めさせ、今回の経験が、これからの学生生活の上に生かされるように務めたいものです。



弁論する吉村さん



+++ 姉妹都市だより +++

〔女性市長誕生!!〕

昨年の3月10日、サンマテオ市長の改選にあたり、ジェイン・ベーカー女史が新たにサンマテオ市長に就任しました。これは、サンマテオ市制81年の歴史の中でも、始めてのことで、国際婦人年に相応した快挙といえます。女史は過去サンマテオ市議を2期勤め、また、米国女子大学協会の会長も勤めたことがあり、サ市の姉妹都市協会関係者からの情報によりますと、姉妹都市事業にも非常に理解を示してこられた人であるとのこと。

彼女を補佐する助役には、過去何度も市議を勤めた経験をもった市政練達の士ジョン・マレー氏が就任しました。しかし、他の重要なポストは、ほとんど女性が占めました。即ち、カレン・ヘルル女史—住宅委員、ベアトリス・リッジウェイ女史—図書館委員、シャロン・ロジャース女史—都計審会長、フローレンス・ロード女史—公園・レクリエーション委員会委員長等々で、まさに百花繚乱といったところで。

しかし、ベーカー市長は、今流行のウーマンリブの気負いなんてものはさらさらなく、「市政を推進していくには、

他の4人の男性の市議の協力や、夫の援助が是非とも必要です。」と語っておられます。

〔ブルーン会長、湯本委員長選出〕

昨年、サンマテオ市姉妹都市協会の役員の改選が行われ、会長には、前ウイスナー会長にかわって、ハンス・ブルーン氏が選出されました。また、協会の分科会の一つである日本委員会の会長には、アンダーセン前会長に代って、ジョン湯本氏が就任しました。



49年10月3度目の来豊時の際の湯本氏

A City First *Woman Mayor* *In San Mateo*

The City of San Mateo has its first woman mayor in its 81-year history.

Mrs. Jane Baker, second elected councilwoman ever to sit on the panel and a past president of the San Mateo branch of the American Association of University Women, was unanimously elected Monday night.

John Murray, who has held the post several times before, was unanimously elected vice mayor.

"This seems to be the year women have taken over San Mateo," commented Murray as he seconded Mrs. Baker's nomination. He noted that "the ladies" chair two city commissions.

In taking office, Mrs. Baker first presented Condon with a plaque and gavel, and lauded the cooperation he had developed with neighboring cities. "Never in our history have we had such cooperation," she said.

A better Civil Defense situation, better communication, and development of a bus system that will go into effect March 31 and link north Burlingame, south Belmont, Foster City and Half Moon Bay had come under Condon's administration, she noted.

"That is a good 15-cent ride," she said.

"For myself," she continued, "I would like to say that

ベーカー市長の就任を報ずる地元紙

it is a thrill and it is an honor, to be the first woman mayor.

"I cannot say that this is a giant step forward for women's liberation, because I will be very dependent upon five men in order to have the successful year that I see ahead.

"I will," Mrs. Baker said, "be very dependent upon the cooperation and knowledge and experience that four more of my fellow councilmen bring to the city council. I will also continue to be very dependent for the physical and fiscal support of my husband."

She then called upon her
(See Page 12, Column 2)

〔トヨナカ・ナイト行わる〕

昨年の5月16日、サンマテオ市セントラルパーク・レクリエーションセンターで、サ市姉妹都市協会主催による「豊中の夕べ」が行われました。

大会は、当時の協会長アルバートJ・ウイスナー氏が議長をつとめ、米国に着任したばかりの日本のサンフランシスコ総領事「スエオカ・ヒデノリ氏」が、特別来賓として招かれました。このほか、ジェイン・ペーカーサンマテオ市長、ヨシ・コジモト日系米人会会長、ヒロシ・カワイカリフォルニア住友銀行支店長等が来賓として出席されました。

催しは、盆栽展、生花展、日本舞踊、日本紹介の映画等でアンダーセン日本委員会会長（当時）が、サンマテオ市姉妹都市協会の歴史について講演を行いました。



出演者を紹介するウイスナー氏

〔ヨーク市と姉妹都市に〕

サンマテオ市は、このたび、ペンシルバニア州のヨーク市と姉妹都市の契りを結びました。これは、今年の米国建国200年祭に際し、建国ゆかりの地東部の都市と姉妹都市を結びたいというサンマテオ市民の意向によってこのたびの提携となったものです。

サンマテオ市では、来たる4月12日から18日にかけて、200年祭の一環として市を挙げてヨーク市を親善訪問することになっていますので、本年サンマテオを訪問される予定の会員は、この期間は、避けられた方がよいと思います。

これで、サンマテオ市は4つの市と姉妹都市になったわけです。（豊中市、ヴェーデ市-デンマーク、サンパブロ市-フィリピン、ヨーク市-米国）

〔バッファロー号来たる〕

去る11月29日、バッファロー号と名付けられた車で2人の青年が、市役所を訪れました。鈴木勝由君（26才、ジャーナリスト）及び藤井英明君（25才、同じくジャーナリスト）の2人で、今年の米国建国200年祭を記念して、米国にある日本の姉妹都市を前述のバッファロー号を運転して親善訪問しようという計画で、訪問先の姉妹都市に渡すメッセージをあづかるために日本国内の縁組都市をまわっているものです。

10月10日の東京都訪問を皮切りに、北海道、東北、関東甲信越とまわり、第69番目に豊中市を訪問したものです。あいにく、下村市長は公務のため面談できなかったのですが、ジェイン・ペーカー市長宛のメッセージを両君に託しました。なお、2人は、今年の10月7日に、サンマテオ市を訪問する予定です。



市役所前で、鈴木君（左）と藤井君

〔サ市無線クラブとの交流盛んに〕

かねてから、サンマテオ市アマチュア無線クラブと、豊中市アマチュア無線クラブは、姉妹クラブの関係にありますが、このほど、サ市のアマチュア無線クラブのジェリイ・シャピロ氏から、もっと交流を盛んにしたいと下村市長宛に申し入れがありました。

事務局では、早速、豊中アマチュア無線クラブの会員である豊中市医師会の北野芳春先生にシャピロ氏の意向を伝えると共に同氏との交信方を依頼しておきました。

〔レッドウッドの表示板を設置〕

昭和41年市制施行30周年記念として、サンマテオ市から贈られ、豊中市水道局の南側に植樹されたレッドウッドの苗木も、今では、数メートルの木に成長しております。し

かし、今まで、木に何らの表示もしていなかったのに、それとすぐ解らないくらいもありました。そこで、協会では、このほど「レッドウッドの木—この木は姉妹都市サンマテオ市から贈られてきたものです。」とあらわした表示板を立てました。

〔アトキンソン元企画部長死去〕

サンマテオ市の元企画部長ハロルド・アトキンソン氏は、去る2月8日（昭和51年）心臓病のためカリフォルニア州スタンフォード大学附属病院で死去されました。氏は、コーネル大学卒業後、公園プランナーとして第一歩を踏み出され、其の後、アメリカ国内で数々の都市計画策定に参画し、死去を報ずる米紙の記事でも「米国有数のプランナー」と書かれてあります。氏は1951年にサンマテオ市企画部長として就任し、1958年の退職迄に数々の勝れた都市計画を策定されました。其の後は、都市計画コンサルタントとして活躍され、昭和47年11月に来豊され、島岡助役（当時企画部長）等の豊中市のプランナーとデスクッションをやった事もあります。マーガレット未亡人は、サ市姉妹都市協会の役員として永年両市の親善に努力して来られた方でもあり、我々と致しましては、心からアトキンソン氏の御冥福を祈りたいと思います。なお、豊中市としては、早速下村市長名で弔電を送付しました。



ありし日のアトキンソン氏

短信—昭和50年

- 4月4日～北条町2丁目の坂本孝子さん（元中華航空勤務）は、一年間米国で勉強するために出発。彼女は、米国の事情に暗いのですが、サンマテオ市に住んで勉強したいという希望を持って、下村市長及び市村会長を訪ね、協力方を要請されていました。協会でも、サ市市長及びジム中田氏、ジョン湯本氏等に依頼してまいりましたが、どちらからも彼女に対してできるだけのことをしたいとの返事がきております。
- 4月18日～豊中手話サークル役員内谷泰子さんは、米国、特にサンマテオ市の聾啞者福祉を視察し、福祉関係ボランティアと交歓するため渡米。5月16日にサンマテオ市で開催された「豊中ナイト」に出席。
- 6月4日～昭和50年度通常総会を市民会館で開催。議事終了後、第3回高校英語弁論大会の優勝者田淵とも子さんに、優勝弁論を再度披露してもらった。



優勝弁論を再演する田淵さん

- 7月8日～大阪北YMCA講師北村裕氏は、ジェイン・ベーカーサンマテオ市長あての下村市長のメッセージを携えて、サ市を訪問。ベーカー市長と交歓の後、消防長の案内で市内を視察。ライオンズクラブの午餐会にも出席。
- 7月16日～豊中ロータリークラブ交換学生スコット・ベニングーベン（17オーストラリア高校生）、ケビン・ナクルス（19オーストラリア大学生）、グレッグ・ガンピング（サンマテオ大学生）の3君来庁。下村市長市村会長等と交歓。なお、豊中より派遣される林英明君も同席し、市長、会長の激励を受けた。
- 7月19日～豊中ロータリークラブ交換学生林英明君出発。同君は、サンマテオ市で大変な歓迎を受け、ジェイン・ベーカーサンマテオ市長にも会ったとのこと。



下村市長と交歓するベニンゴーベン君等

7月23日～豊中ライオンズクラブ交換学生レス・ベテンコート君（カリフォルニア州立大学生）豊中市を表敬訪問。下村市長、島岡助役と交歓。



左より永見企画部長、三木氏（豊中ライオンズ）、前田氏（豊中ライオンズ）、ベテンコート君、下村市長、島岡助役、川合隆子氏

7月29日～4日クラブ員ジム・ウェルチ君（15才）、イサベル・チノンスキー嬢（13才）、ケビン・ホームズ君（21才）、ジョン・カオア君（13才）の4名が豊中の4日クラブ員の案内により来庁。企画部職員のご案内で市庁舎を見学

8月～本年1月からアリゾナ州立大学へ留学中であった市議山口信治氏の子息山口栄一氏（全日空勤務）は8ヶ月の留学を終えて帰国。滞米中は、サ市姉妹都市協会役員ジム中田氏等到大変世話になったとのことである。

8月～下村忠功氏留学のため渡米。

9月23日～24日サ市姉妹都市協会役員ジム中田氏来豊。旅行幹施業を営む氏は、刀剣観賞団のマネージャーとして来日のところ、暇をみつけて来豊されたもので、下村市長、島岡助役等と旧交を温められた。

10月6日～7日このたび、サ市姉妹都市協会日本委員会会長に選任されたジョン湯本氏来豊。氏は米国における日本刀の研究者として、国際的にも著名の士であり、今回、刀剣観賞団の団長として来日され、一日豊中市を訪問されたものです。氏はまた、切手蒐集家としても有名であり、切手を通じてかねてより交流を結んでいた高須京一元用地部長とも交歓された。下村市長、市村会長等との会談の席上、湯本氏より、来年建国200年祭に、豊中市民が多数サン

マテオ市を訪問されるよう希望すると述べられた。

編集後記

今年は米国建国200年に当るので、サンマテオ市でもいろいろな催物が計画されているようで、情勢さえ許せば、3年前のように、協会で親善訪問団を結成して派遣したいところです。会員各位でこの期に訪問される際には、協会としましては、できるだけの側面援助をしたいと考えております。すでに、サンマテオ市長及びサンマテオ市姉妹都市協会からは是非、200年を祝うサンマテオに来られるよう要請が来ております。

一新会員紹介

坂本孝子（在米国）
 内容泰子（手話サークル役員）
 西川 博（豊中青年会議所）
 百済修明（ " ）
 馬場雄一（ " ）
 川手洋三（豊中市役所）
 福田勝啓（ " ）
 三村昌雄（ " ）
 安達 昇（ " ）
 平野敏雄（ " ）
 石原英志（ " ）
 榊谷芳明（ " ）
 細見史郎（ " ）
 豆腐谷英世（ " ）
 甲賀忠昭（ " ）